

創造的な学びにチャレンジする着想を得た

6月号の特集で紹介されていた「高校生未来プロジェクト」に参加していた生徒の生の声は、大変参考になった。高校を卒業した大生も座談会に加わったことで、議論に深みが出ていたと思う。プライベートなどの問題もあつて難しいかもしれないが、この後の彼らの活躍を追跡する取材を続けることも検討してもらいたい。私は、この夏、勤務校で小論文講座を担当することとなった。今回の特集を読み、型どおりの講義や添削指導だけではなく、ワークショップ形式などを用いた創造的な学びにもチャレンジしてみようという着想を得られた。

〔兵庫県立明石南高校・井守 真〕

言語活動の機会を与える学校を構築したい

6月号「指導変革の軌跡」での石川県立金沢錦丘高校の記事を読み、全校体制で言語活動をとり入れ、論理的・批判的思考力を育成する取り組みに感銘を受けた。本誌の「一人ひとりがよく生きるために」という目標の原点に学びの意欲があると感じる。特集で紹介されていた「高校生未来プロジェクト」から見ることが、「学び、社会、自分」の語りで変容する高校生の姿ならば、校内でも積極的に取り入れるべき実践だと思った。今以上に試行錯誤しながら、オックスフォード大の荻合剛彦教授が話されていたように、語り合うことに飢えている生徒に充実した言語活動の機会を与えることの出来る学校、教育課程、教科指導、生徒指導、進路指導を構築

Reader's VIEW

Volume 3

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

模索していた指導に確証を得られた

6月号「新課程 教科指導最前線」の数字についての記事は、非常に参考になった。一単元を取っても、いろいろな指導方法があるのだと感じた。「データの分析」については、本校も扱い方を模索しながら、センター試験で出題される程度であると予想していた。福井県立武生高校でも、センター試験程度という見解が出ていたので、本校もこのままでよいと認識することが出来た。教科会に報告したいと思ったし、このように「VIEW21」の情報や他校の教科指導の取り組みについて教科会で共有できるのは良いことだと感じた。

〔東京都・私立東京農業大学第一高校中等部・小堀 健一〕

他教科の指導最前線が大きな刺激に

6月号「新課程 教科指導最前線」の記事から、担当教科の英語以外の生々しい指導最前線の現状と挑戦、試行錯誤などが垣間見えた。私にとってはとても刺激になり、良い企画だと思った。

〔兵庫県立播磨農業高校・丸山 正人〕

教師川柳

変わる世に
変わらぬものを教えたい

長野県・一徹

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

◎「主体性の育成」をテーマに特集がスタートして、ちょうど1年となります。そこで今号では、これからの社会で求められる主体性とは具体的にどのようなものなのかを改めて考えました。対談記事の中で北川先生がおっしゃっていたように、主体性とは、他者の存在を前提としているものであり、社会貢献意識などは、まさに主体性の強い表れなのだと思います。これまで弊誌が追求してきた主体性育成の方向性が再確認できた特集となりました。今後も、主体性をより具体化させながら、その育成のために必要な指導のあり方について考えていきたいと思います。(柏木)

VIEW21 8月号 Vol.3

2013年8月23日発行

発行人 岡田晴奈
編集人 谷山和成
発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンタコ
執筆協力 中丸満、横堀夏代
撮影協力 荒川潤、筒井岳彦、ヤマグチイッキ
イラスト協力 カモ
情報編集室
〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

©Benesse Corporation 2013

VIEW21

2013
October
10月
Volume 4

次号は
10月10日発行(予定)

〔VIEW21〕高校版は
年6回の発行です